

99年もいよいよ終ろうとしています。不況の風は相変わらずビュービュー吹きまくり、ビジネスパーソンにとってはつらい1年でした。まっ、恐怖の大王は降って来なくてよかったけどさ。

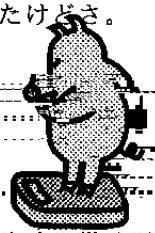
今月はちょっと悲しいお知らせです。JBDFを草創期から支えてこられた佐竹義信さんがこの期場合さるこたはなりました。健康上の問題などで無理なから

に出席できないというのが主な理由だそびです。今回は社会大デネネアトとの関わりということで原稿をお願いしました。JBDFを離れても佐竹さんには

お元気でご活躍していただきたいと思ひます。

尚、私もお涙り出席できないので言とが言うて、佐竹さんの後追い退会とい

うのは止めてくださいね。今出席できない方も再起動されることを運當部一同心待ちにしております。



Debate と私

佐竹 義信

大阪万博（1970）を期に日本の経済界は海外志向が高まり、私も、海外関係の仕事に私自身のキャリア変更を試みました。町角の学校で英語のやり直し勉強をしたり、米軍のキャンプに出入りしたりして、生きた英語を勉強しているのが、海外関係従事者の拡大を考えていた会社の上司の目にも触れ、米国赴任の辞令が発行されました。国内担当の営業マンが海外赴任するのは、当時は、全く新しい動きでした。

毎日、未経験の仕事に挑戦しながら判ってきたことは、外国人、特に欧米のビジネスマンと商談すると、同じビジネスマンとは言え、会話は全く思うように進められません。また、苦勞ばかりが増え、商談では何時もやり込められている、と強く感じたものです。バイヤーの欧米の一流国に対し、我々は2~3流国なのだと、思い知らされる毎日でした。

彼らの言うことは、きわめて明快で、常にイエス・ノーがはっきりしている、しかし、日本側は何時も「曖昧の文化」を背景にして、イエス・ノーをはっきり言うことが出来ません。本社からくる情報に曖昧さが残っていても、先端にいる私達が勝手にそのニュアンスを変えることは出来ません。しかし、相手はイエス・ノーを求め続けてきました。客と会社との板ばさみには困ったものです。70%の回答は来るのですが、不足している30%は客担当の我々が、何らかの補充をしながら商談を進めました。

文化背景が同じであれば理解もしやすいのですが、異なる文化背景では理解に時間がかかるのみならず、誤解を与えることにもなりかねません。しかも私達は、外国の会社と話を進めるにあたり、日本の会社の代表として話しをしているので、こちらの社内の特事情、対人上の調和、部門間ハーモニーにも配慮しながら、商談を進めなければならなかったのです。

これら折衝の過程では、イエス・ノーのみならず、When、How、Where、Who、など矢継ぎ早やに質問が発せられ、それに的確に答え、かつ、当方の立場も確実に守らねばならない、というスタイルで、商談は進みました。最初は、常に押され、防戦一方の商談ばかりだったように思えます。正直なところ、この交渉力の格差に参っていました。当然、言語上のハンディキャップも無視できず、交渉に必要なミニマムの英語力の必要性も実感し、時間を割いて、将来、何かの役に立つはず信じて、進歩の自覚のないままに、ただ、英語の勉強を続けました。

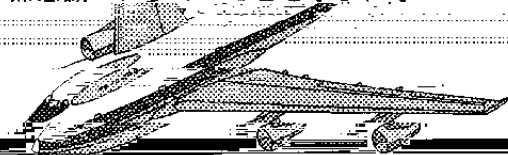
こんな生活を、数年に渡って続けているある時、イベントの存在、しかもそれを、英語で訓練するグループがあると知り、これに挑戦することにしました。それがJBDFに参加した最初の時代です。もう、15年以上も前のことになりましょうか。参加してみて驚きました。皆さんの英語の上手なこと、しかも、私より遥かに若いお嬢さん方が、きれいな英語で、debateの訓練。回りは若い方ばかり。大丈夫かな、このような方と伍してやっていけるかな、という心配と不安の連続でした。当然、その勉強の過程において、正しいdebateの方式で、debateを試みました。そのdebateの形のみならず、それぞれの問題点の正しい理解、資料の探索・整理、確認と理解、そして相手の反応に対する対応法などの練習を繰り返し、繰り返し行いました。私は、これらは形の理解と訓練、と考えております。

私は、単なるdebateの勉強は、避けたいと思ひました。仕事上必要なdebate訓練が、目的だったからです。その為か、技術がないままに意気ばかり上がり過ぎて、仲間にも、随分、「敵」を作ってしまった。「佐竹とは話しするのめいやだ」という方も多く居られたことと存じます。改めて、お詫び申し上げなければなりません。少なくとも、「debate紳士道」からかけ離れたことと思ひます。すみませんでした。お詫び致します。

いつの間にか3~4年経ち、Formalと言われるdebateにも何回か参加致しました。テーマの勉強の過程で、debate技術や手法以外に、各主題の基礎的な研究・勉強を通じ、予期せざるいろいろな勉強をいたしました。これは、無意識に、多くのことを学び、そ

の後の社会へ生活に大いに役立ったと思ひ出だされます。

一方、仕事も増え、日に日に忙しなくなり、「毎日の商議の項に片断然に忙しなるdebateのそを左方で学ばが、私の仕事面で非常に役に立っていることには気がつ



くことが多くありました。これには、副産物として、より以上の効果のあった、と、私は考えています。

を大きくしてくれました。私の生活を充実させ、緊張感を与え、楽しくしてくれました。この知らず知らず

具体的には、相談やその他の話し合いの中で、誘導・説得したい方向に、相手を向けさせることが多くなっている、と気がついたのです。これには、知らず知らずの内に身についた、debate的えかたや、話し方が、私に説得力を与えてくれたと、理解しています。

サラリーマン生活も終わりに近づき、ある得意F社。見込み客と言った方が正確ですが、契約をに当たり、大議論を続けました。どうしても同意達せないのです。双方、お互いに将来のパートナーとしての魅力を感じながら、合意に達せず、やや感にもなり、双方それぞれの弁護士も同席して、侃々諤々の議論を続けたこともありました。

定年になる寸前、会社から、私が第一線から退任、2年ばかり秋田県の子会社の顧問として手伝い、と打診を受けました。定年になったら、骨も兼ねて、平和な(に見える)秋田に行くのも、楽しいだろうと、喜んで受け入れ、秋田での単身2年間。その間に、この時の相手であったF社長から、日本に行くので、会いたい、との連絡を。現在、東京にいない旨連絡したところ、秋田までと言います。来るものは拒まず、一緒に山中の温泉など、彼にとっても初めてのことであり、二人大いに大自然を楽しみました。ある時、温泉につながら、これからする仕事が決まっていないのか、「俺の仕事を手伝え」と誘われたのです。彼による「あの議論で、お前にはことごとく論破され、に参ってしまった。俺はあまり経験したことのない完璧な負けであった。あれは一生忘れられないだ。については、一緒に、わが社の為に仕事をしてくれか？」と言うのです。

其処まで言われて、気持ちの悪い筈も無く、また方、「これからの不景気の最中に、仕事と言っかなかないだろう、引退も止むを得ないか・・・、考えていたので、直ちに「お役に立てるなら、おいさせてください」ことになりました。

私にとっても、なかなか追いつけなかった米国ビジネスの進め方を勉強するには、またと無いチャンスと、仲間に加えてもらいました。しかも、このはCalifornia大学 Berkeley校との連携で、高度ソフトウェアの研究開発する約50名からなるventure company、わたくしとしても申し分ありません。

そして現在、肩書きは「社長顧問」として、日学会関連、特殊な得意先、特別プロジェクトの調整など、日常の営業実務を除いた折衝・調整を主とした仕事に従事しています。また、米国のみ中、小学生の社長の娘を我が家に住ませ、そのまま、日本の普通の小学校に転入生として入学させなど、いろいろな体験もしました。これは我々のを広げると同時に、その子供にも、大きな影響をました。(朝日新聞神奈川版その他で報道されまこの仕事も、自分の年齢を考えると、仕事として時までも続けるわけにはまいりませんが、周囲が許す限りつづけたいと思っています。

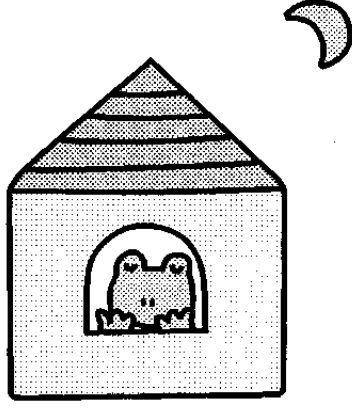
こんな経験は、私にとっては、全てdebateの持つ縁であったと考えています。debateは私の

に身をつけた技術は、私の文化や生活まで変えなしたような気すら致します。debateは、debateほどどまらず、大きな未来を開いて行くものど理解いたしました。

最近、debateの活動に参加するには、体力の不足、精神力の不足を感じる年齢になりました。出席率最低でも、何時もご連絡を頂いておりました。皆様の仲間に入れていただいたことは、私にとっても有益かつ画期的なことでしたが、このまま、ご迷惑をかけ続けるわけには参りません。この辺で、「終業」ということにさせていただきます(卒業ではありません)。

有難うございました。御礼申し上げます。皆様のご健闘を心からお祈り申し上げます。

以上。



J B D F 今年の1年

- 3月 ○JDA 春季大会 B部門、辻井・川俣チーム優勝。川俣さん同部門ベストディベータ賞受賞。A部門に綾部さん、中山さん、渡辺起里さん井本さん参加。
- 第1回ワークショップ、講師：瀬能さん
- 6月 ○日米交歓ディベート
- デイリーヨミウリディベート大会
加藤宏・青沼智チーム優勝。渡辺徹・上野滋男チーム準優勝。山口さん、綾部さん、桜井さん等が参加。
- 8月 ○ホームページリニューアルby加藤隊長
9月にはYahooに登録されました。
- 9月 ○JDA 秋季大会 A部門、checkmate綾部・渡辺チーム優勝。渡辺徹さん同部門ベストディベータ賞受賞。渡辺起里さん、井本さん参加。
- 第2回ワークショップ、2回のWSでリビーターが随分増えました。
- 10月 ○恒例夏合宿(秋だけ)
江ノ島「ニュー向洋」に12名が参加。
- 12月 ○松本賞・新人賞発表!

注意事項：最近入会された方へ「なんでこんなところにドラえもんぬいぐるみが...」と思ったらそれが我が顧問松本しげる先生です。